

◎アタラックス-P 注射液 [注], △P ドライシロップ, ○P カプセル [内]

【重要度】★ 【一般製剤名】ヒドロキシジンパモ酸塩/ヒドロキシジン塩酸塩 Hydroxyzine Hydrochloride/Hydroxyzine Pamoate 【分類】抗アレルギー性緩和
精神安定剤

【単位】◎25mg/A [1mL]・▼50mg/A [1mL], △2.5%DS, ○25mg・▼50mg/Cap

【常用量】■注射：1回25～50mg 静注 [最大100mg], 1回50～100mg 筋注

■経口：皮膚症状：30～60mg/日 (錠) もしくは50～75mg/日 [Pカプセル]

■神経症：75～150mg/日

【用法】■注射：必要に応じ4～6hr毎に筋注, 点滴静注, 静注 [静注時25mg/min以下の速度で。原液の側管静注不可] 筋注後は強くもまない]

■内：分2～3 (蕁麻疹・皮膚掻痒) 分3～4 (神経症)

【透析患者への投与方法】活性代謝物は60%尿中排泄され, 半減期は軽度～中等度腎障害で著明に延長するため, 半量に減量するか投与間隔を3倍以上に開ける必要性あり (5)

【その他の報告】減量の必要なし (3) 常用量の50%に減量 (12) 中等度以上の腎障害患者では消失半減期が遅延する可能性があるため慎重投与 (1)

【保存期CKD患者への投与方法】Ccr 50mL/min以上：減量の必要なし, Ccr 10～50mL/min：連続投与する場合には50～75%に減量, Ccr 10mL/min以下：50%に減量 (5)

【その他の報告】Ccr<50mL/min：常用量の50%に減量 (12) GFR 50mL/min以下：不明 (3) 中等度以上の腎障害患者では消失半減期が遅延する可能性があるため慎重投与 (1)

【特徴】抗ヒスタミン剤に類似の骨格を有するトランキライザーで抗不安・静穏作用, 制吐作用, 抗アレルギー作用, 抗ヒスタミン作用を有する。依存性は低い。

【主な副作用・毒性】ショック, アナフィラキシー, 肝障害, QT延長, 心室頻拍, 興奮, 錯乱, 眠気, めまい, 血圧降下, 消化器症状, 尿閉, 霧視など

【安全性に関する情報】QT延長のある患者, QT延長を起こすことが知られている薬剤を投与中の患者, 著明な徐脈や低K血症等のある患者には慎重投与 (1)

【吸収】ほぼ完全に吸収される (1)

【Tmax】2.1hr (Simons FE, et al: J Allergy Clin Immunol 73: 69-75,1984) 30min (1) 活性代謝物 cetirizine の tmax は高齢者で1.3hr, 若年者で1.12hr (Lefebvre RA, et al: Int J Clin Pharmacol Res 8: 463-470,1988)

【代謝】代謝されて活性代謝物 cetirizine になる (Simons KJ, et al: Clin Pharmacol Ther 45: 9-14,1989) CYP3A4, 3A5 及びアルコール脱水素酵素で代謝される (1) ヒトにおける主代謝物は cetirizine であるが代謝過程等の詳細については明らかでない (1)

【排泄】活性代謝物 cetirizine の尿中排泄率は60% (Simons FE, et al: Ann Allergy 59: 20-4,1987) 主に活性代謝物 cetirizine として排泄される。活性代謝物 cetirizine はほとんど代謝されない (Wood SG, et al: Ann Allergy 59: 31-4,1987)

【CL】9.78mL/min/kg (Simons FE, et al: J Allergy Clin Immunol 73: 69-75,1984) 平均年齢69.5歳では9.6mL/min/kg (Simons KJ, et al: Clin Pharmacol Ther 45: 9-14,1989)

【t1/2】20～30hr (1) 20±4.1hr (Simons FE, et al: J Allergy Clin Immunol 73: 69-75,1984) 活性代謝物 cetirizine の t1/2 は高齢者で11.8hr, 若年者で10.6hr (Lefebvre RA, et al: Int J Clin Pharmacol Res 8: 463-70,1988) 活性代謝物 cetirizine の腎機能正常者の t1/2 は7.4hr, 軽度～中等度腎障害者の t1/2 は19.0～20.9hr (Matzke GR, et al: Ann Allergy 59: 25-30,1987) 【透析患者の t1/2】活性代謝物 cetirizine : 19.3hr (Awni WM, et al: Eur J Clin Pharmacol 1990 PMID: 1970299)

【蛋白結合率】活性代謝物 cetirizine の蛋白結合率96.1% (Benedetti MS, et al: Eur J Clin Pharmacol 57: 571-82, 2001)

【Vd】16L/kg (1, Simons FE, et al: J Allergy Clin Immunol 73: 69-75,1984) 22.5L/kg [高齢者] (Simons KJ, et al: Clin Pharmacol Ther 45: 9-14, 1989) 活性代謝物 cetirizine の腎機能正常者の Vd は0.41L/kg, 軽度腎障害者で0.47L/kg (Matzke GR, et al: Ann Allergy 59: 25-30,1987)

【MW】447.83 (塩酸塩)

【透析性】活性代謝物 cetirizine の除去率は9.4%にすぎないため, 透析後の補充投与は必要ない。透析CLが14mL/minで健常者の全身CLの33% (1, Awni WM, et al: Eur J Clin Pharmacol 38: 67-9,1990)

【TDMのポイント】TDMの対象にならない【pKa】2.13, 7.13 (1) 【OW係数】資料なし (1)

【相互作用】中枢神経抑制剤の作用増強の可能性 (1) ベタヒスチン, 抗コリンエステラーゼ剤 (ネオスチグミン臭化物等) の作用減弱の可能性 (1) シメチジンにより血中濃度上昇 (1) QT延長を起こすことが知られている薬剤との併用注意 (1)

【備考】皮膚壊死, 潰瘍, 疼痛のおそれあり, 筋注後は強くもまない (1)

【更新日】20221105

※正確な情報を掲載するように努力していますが, その正確性, 完全性, 適切性についていかなる責任も負わず, いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし, それらを利用した結果, 直接または間接的に生じた一切の問題について, 当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は, 日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。